

わが

新たな100年に向けての挑戦

市制施行100年

明治34年に旧陸軍第七師団が移駐し、旭川は軍都として急速に発展しました。農業、家具、木工をはじめ、多くの新しい産業が興ると同時に、軍人の方々や往来する人々から文化が伝えられ、現在の旭川の礎が築かれました。大雪山から流れる豊かな伏流水により、



JR旭川駅南口に直結する北彩都ガーデン



旭川動物園(上) 旭川家具(下)

今では作付面積・生産量共に道内一の米の産地にまで

今では作付面積・生産量共に道内一の米の産地にまで

成長し、かつて「北海の灘」といわれた酒造りは、技術がさらに磨かれ、高品質な旭川の酒は世界中で親しまれています。また、生活必需品から発展してきた家具や木工などの産業は、現在、デザイン創造都市という形の中で花開いています。旭川駅に直結した北彩都ガーデンでは、宿根草など草花が咲き誇る癒しの空間が広がり、大雪山系をはじめとする豊かな自然と、充実した医療や福祉、教育、文化などの都市機能が調和する旭川市は、地震などの自然災害は全国でもトップクラスに少なく、北海道の拠点都市であ

り、令和4年には市制施行100年の節目を迎えました。市民と切り拓け！アイデアいただきます
本市も全国の例に洩れず、人口減少、特に若年層の人口流出が進む中、若者たちが働きやすい子育て支援策や、女性活躍を後押しする施策の充実、そして日々の暮らしがワクワクするまちづくりが重要と考えます。そのため、私が就任してから、市民と話し合い、2030年の旭川の未来想像図を描く「旭川未来会議2030」を創設し、事業の改善や拡充につなげてきました。令和4年10月に開設した子育て世代包括支援センター「waka・Da」の名称のほか、施設全体の壁や天井などの色や柄、立体駐車場



旭川未来会議2030 6分野58人の皆さんと

ているのか、私から積極的に伺い、施策に反映します。
きつと、うまく(旨く)いく
家具・木工などの特長ある産業や、長年にわたる地域のデザイン性向上への取り組みが評価され、本市は令和元年にユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)(加盟都市295都市)にデザイン分野で加盟認定を受けました。令和4

との連絡通路の安全対策にも意見を取り入れました。令和5年度も環境、子育て、女性活躍、文化、ものづくり、障がい者スポーツの6分野を設定し、参加する多くの若者や女性からも、市民がこのまちに対してどのような思いを持っているのか、私から積極的に伺い、施策に反映します。



旭川ラーメン（左上）、新子焼き（右上）
塩ホルモン（左下）、地酒・地ビール（右下）

ン、食産業や観光客の誘致など、「食」を中心に据えた地域産業の振興を進めます。ぜひ、デザイン思考により磨かれた「食」のまち旭川に越してください。

年7月にブラジルのサントス市で開催された総会では、まちの魅力を世界に発信し、令和5年3月にオーストラリアで開催されたUC CNにデザイン分野で加盟する43都市による分野別会議では、令和6年の旭川開催に向けて立候補したところです。

令和5年度は、新たに「(仮称)フードフォレスト旭川構想」を立ち上げます。本市には米をはじめ、野菜、果樹などの安心・安全で豊かな食材があり、旭川ラーメンや市民のソウルフードである新子焼き(若鶏の半身焼き)、塩ホルモンなど、ご当地グルメも数多くあります。構想では、専門家などを中心に、デザイン思考により、これらの特性を最大限生かし、商品開発や販路拡大、プロモーション、食産業や観光客の誘致など、「食」を中心に据えた地域産業の振興を進めます。ぜひ、デザイン思考により磨かれた「食」のまち旭川に越してください。

ワン・フォア・オールで圏域活性化

令和4年1月には、近隣の鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町および美瑛町と連携協約を締結し、旭川大雪圏域連携中枢都市圏を形成しました。連携協約により、ゼロカーボン推進や企業誘致推進、ヒゲマ対策、新規就農者の育成など、圏域での課題解決やブランディングにつながる46の事業を進めています。また、令和4年9月に1市8町で羽田空港にて開催した「旭川大雪マルシェ」では、当該催事スペースにおいて過去最高の売り上げを記録し、農畜産品を中心に圏域の特産品や魅力を広くPRしました。



旭川大雪圏域連携中枢都市圏 連携協約調印式

子どもたちの笑顔のために

令和3年3月に本市中学生が遺体で発見された痛ましい事案は、いじめ重大事態として、現在、尾木直樹委員長をはじめとする再調査委員会において真相解明に向けて取り組んでいただいているところです。真相解明と同時に再発防止対策が非常に重要と考え、令和3年12月に視察した大津市、岐阜市、

プロフィール

- ◆ 面積 747.66 km²
- ◆ 人口 32万3781人
- ◆ 世帯数 17万7478世帯

〔市長が目指す将来都市像〕親子4世代で暮らしていける持続可能なまち

〔まちの特徴〕ユネスコデザイン創造都市として、デザイン思考により、まちづくりを進めている

〔特産品〕旭川ラーメン、塩ホルモン、新子焼き、米、地酒、旭川家具



旭川市長
今津寛介



〔観光〕旭山動物園、あさひかわ北彩都ガーデン、北鎮記念館、三浦綾子記念文学館、神居古潭、嵐山から見た夜景

〔イベント〕北海道音楽大行進、北の恵み食べマルシェ、旭川夏まつり、旭川冬まつり、バーサーロペットジャパン、旭川デザインウィーク

寝屋川市の取り組みを参考に、4月から市長部局にいじめ防止対策推進部を新設し、市長部局と教育委員会が一体となって、いじめ未然防止対策や、相談体制の充実、問題発生時の迅速な対応を行う「旭川モデル」の取り組みを開始しました。この「旭川モデル」を全国に発信し、全国からいじめをなくし、子どもたちが笑顔で暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。